

**CONTENTS**

- 活動報告・各種会議議事録
- 第46回大会報告
- 会員動静
- 学会関連カレンダー
- 学会主催会議等の詳細
- 残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ
改訂4版2018出版のご案内
- 「農薬について知ろう」ウェブサイトのご案内
- 【予告】農薬科学研究奨励金
- 日本農薬学会第47回大会のご案内
- 会費値上げのお知らせ

令和3年度 第1回常任評議員会議事録

日時：令和3年4月24日(土) 13:00～15:52

方法：Webexによるオンライン開催

出席者：出席者16名（第47回大会組織委員長を含む）

議事：

I. 令和2年度第5回常任評議員会議事録の確認

日本農薬学会第47回評議員会議事録の確認

日本農薬学会第46回通常総会議事録の確認

II. 経過報告および議案**1. 第47回大会について**

- ・準備状況について、令和4年3月7日～9日の予定で現地開催を目指していることの報告があった。
- ・大会運営の委託先・内容と懇親会会場について議論した。

2. 第46回大会報告

- ・参加費払者、収支決算状況、第10回大会組織委員会、アンケートについて報告があった。
- ・報告と反省点を元に、第47回大会運営委員会への引継ぎを行う。

3. 財務関係

- ・会計報告
- 収支予算管理報告（令和3年1月1日から3月31日

まで）があった。

4. 編集委員会

- ・編集委員リスト案が紹介提案され、承認された。編集事務の業務委託について報告された。

5. 学術・技術支援委員会

- ・13名の委員会委員が提案され、承認された。
- ・本年度の活動計画は概ね昨年度と同様であることが説明された。

6. 将来計画委員会

- ・10名の委員会委員が提案され、承認された。

7. 学会賞受賞者選考委員会

- ・14名の委員会委員が提案され、承認された。

8. 学術小集会

- ・第38回農薬生物活性シンポジウム（4月23日）の開催報告があった。
- ・農薬製剤・施用法研究会の委員が紹介され、第40回シンポジウムの開催予定について報告された。

9. 技術士育成推進委員会について

- ・大会でランチョンセミナーを実施する予定との報告があった。

10. 昆虫科学連合、植物保護科学連合の各活動について報告があった。**11. 公益財団法人農学会、一般社団法人日本農学会について報告があった。****12. 国際学会の渡航費補助の募集について昨年は補助の実績はなく、現在、今年の下半期の募集中。報告があった。****13. Web会議および研究会の開催用ライセンスを取得したこと、学会運営に係る情報と過去資料を一元管理するためのクラウドを設定したことの報告があり、運用方法について簡単に説明された。****14. 入退会の報告があり、6名の入会が承認された。****15. その他**

- ・常任評議員会に先立ち、会長・副会長で、会員増に向けた取り組みなどについて議論したことが報告された。
- ・各種委員会委員への委嘱状は原則的にPDFでメールで送付することについて確認した。

第209回常任編集委員会議事録

日 時：令和3年6月5日(土) 15:00～17:15

方 法：Webexによるオンライン開催

出席者：11名

I. 報告事項

1. JPS Vol. 46-1, 2を5月24日に発行した (Review 1, Original Article 7, Brief Report 4本). 今後も Review は必ず1本は掲載したい.
2. 近年は毎年100本くらいの投稿があり全体的に質も上がってきている. アクセス数, 被引用数は毎月100～200回であり, これらが高いときはIFも高くなる傾向がある.
3. 投稿料収入は2020年度は922,100円. 督促分10万円は2021年度に計上する. 収入を増やすため投稿料の値上げを検討したい.

II. 議題

1. 和文誌投稿の簡素化及びカラーチャージの変更について
 - ・英文校閲費削減のため和文誌での英語の廃止を協議した結果, 英文タイトル, 英文要旨は残し, 図表は日本語で書くことに決定した. 細則に「図表は日本語で作成すること」の一文を追加することにした.
 - ・印刷経費の1/3以上がカラー印刷費であり, 経費削減のため全て著者負担とすることした. 細則変更は不要であることを確認した.
2. 和文誌の読み物企画について
 - ・「農業科学とその周辺」について
Vol. 46-2 (8/20発行) に4誌を掲載予定. 3編は入稿済み, 1編は来週初めに入稿予定. 次号 (来年2月発行予定分) に向けて3編の掲載が目標.
 - ・「各地の生産現場から」について
原稿はVol. 46-2に掲載可能. 引き続き次号 (来年2月発行) 掲載分を依頼する. 県農試からの投稿については編集委員会が積極的にバックアップする.
 - ・「書評」について
上山功先生著「農業市場」について執筆依頼中. Vol. 46-2に間に合うようにしたい.
 - ・故浅川氏の追悼記事については執筆依頼中であるが返答がない. 引き続きコンタクトを取りつつ, 代わりの執筆者も検討する.
3. Clarivate Analytics (CA) への今後の対応について
 - ・2022年よりJPSの冊子体廃止に伴い, CAへの寄贈送本を停止する予定.
 - ・今後冊子体が無くなった後の対応についてCAから3案を提案されており, これを協議した. その結果, J-Stageに編集可能なPDF版を作ってもらえる

か, あるいは現状PDF編集可能かどうかを確認することにし, PDF編集が可能であることが確認できれば, CAがJ-Stageからダウンロードする案を, そうでなければ, 国際文献社にPDF編集が可能なPDFファイルを作ってもらいCA社に送ってもらう案をCAに連絡することにした.

4. 学会誌の表紙の刷新について
 - ・4案が提示され, 検討した. 予算は20万に決定し, あと半年あるので素材をさらに探すことにした.
5. 令和4年度日本農薬学会論文賞の候補者推要領の変更について
 - ・推薦の簡素化と実績ベースにより, 和文誌の論文(報文)を対象から外すことで合意し, 6月7日付けで委員長の名前で通知することにした.
6. 英語受賞論文の学会による英文校閲廃止について
 - ・学会賞受賞英語論文の英文校閲を廃止することにより英文校閲費の削減を図ることで合意した. 今後は著者自身で校閲し, 原稿は校閲証明書を添付して送付してもらうことにした. 本件は委員長より著者に連絡する.
7. JPS発行と発送の一体化について
 - ・国際文献社と第一発送で分かれていた発行・発送業務を, 発送時間の短縮と経費節減のため国際文献社に一本化して業務委託することで合意した.

令和3年度 第1回学術・技術支援委員会議事録

日 時：令和3年6月12日(土) 13:00～17:00

方 法：Webexによるオンライン開催

出席者：出席14名

議事：学術・技術支援委員会が取り組む以下の各活動に関する今年度の方針について検討した.

1. 「農業について知ろう」ウェブサイト
2. 閲覧状況の分析 (「農業について知ろう」ウェブサイト及び学会HP)
3. 残留農薬分析セミナーの実施
4. 講師派遣の対応
5. 「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ改訂4版2018」の補遺及び周知

令和3年度 第1回将来計画委員会議事録

日 時：令和3年7月10日(土) 10:30～12:00

方 法：Webexによるオンライン開催

出席者：出席10名

議題：

1. 農水省による提言「みどりの食料システム戦略」に対する学会としての今後の取り組み

- ・新技術に関する情報提供・議論の場の必要性について検討した。
 - ・新技術について学術小集会・大会シンポジウムのテーマとして、今後積極的に取り上げてもらうべき。
2. 学術小集会の統廃合・拡大
- ・既存研究会の取り扱う内容の拡張について検討し、以下の提案があった。
 - ・農薬製剤・施用法研究会（ドローンを使用した散布方法）
 - ・農薬生物活性研究会（天敵、感受性検定、IPMなど）
 - ・新たな研究会の設置について検討し、以下の提案があった。
 - ・農業DX（デジタル技術活用）研究会
 - ・抵抗性研究会
3. 編集委員会の今後のあり方について
- ・JPS誌のIF（1.101→1.519）の上昇について報告があった。
 - ・さらにIFを上げる努力が必要だが負担も大きいという意見があった。
 - ・委員長の負担軽減を目的とした、和文誌担当副会長の設置について提案があった。
 - ・退職後の人材の登用促進（謝金あり）についての提案があった。
 - ・専門性の高い秘書を雇用する必要があるとの意見があった。
 - ・編集委員会を含めて事務業務全体についても整理・見直しの必要があるとの意見があった。
4. ポストコロナの日本農薬学会
- ・テレワークの促進（対面会議の削減）の提案があった。
 - ・会員の減少対策として、海外会員の増加促進策（JPSの価値向上、アジア戦略）が必要であるとの意見があった。
 - ・談話会（大学教員、県職員、民間企業研究員の交流会）の設置について意見があった。
5. 「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ改訂4版2018」の補遺及び周知

日本農薬学会第46回大会報告

日本農薬学会第46回大会は、オンデマンド形式（ライブ配信とオンデマンド配信）で令和3年3月8日(月)から3月10日(水)までの3日間に亘り、東京都府中市の東京農工大学府中キャンパスを大会運営本部として開催されました。8日午後の総会、授賞式はリアルタイム配信とし、9日と10日はオンラインライブ質疑応答を実施しました。本第46回大会は、正会員、名誉会員、終身会員、維持会員、関連学会の方々（223名）、学生会員（34名）や非会員（78名）の方々の

の参加があり、参加者総数は335名を数えました。

初日は、東京農工大学府中キャンパス本館講堂を実会場としたハイブリッド形式でWebex EventとYouTubeを介したライブ中継しながら総会に引き続き、令和2年度学会賞授賞式、奨励賞（2題）、業績賞（研究、2題）、業績賞（技術、1題）の受賞者スピーチ、令和3年度学会賞授賞式、奨励賞（2題）、業績賞（研究、3題）、業績賞（技術、1題）の受賞スピーチが行われました。オンデマンド配信は、受賞者講演、特別講演、シンポジウム、一般講演、企業・団体セミナー、技術士セミナーで実施し、配信期間は3月6日(土) 12:00～3月14日(日) 23:59でした。大会2日目と3日目は東京農工大学府中キャンパス本館第二会議室と第三会議室を運営本部として、一般講演（72題）、シンポジウム（2会場）、技術士試験対策セミナー（チャットのみ）、および企業セミナー（5題）のオンラインライブ質疑応答が行われました。一般講演、シンポジウムと企業セミナーはチャットで事前にご質問をいただき、コアタイムにZoom会議システムを用いて質疑を行いました。今回、大会2日目午前中に「生物制御科学の未来を拓く～農薬科学の新展開への挑戦～」そして3日目はバイオサイエンス研究会との共催で「生物と化学のはざままで」と題したシンポジウムのオンライン質疑応答を開催したところ、いずれの会場も多くの参加者により、活発な討論が繰り広げられていました。特別講演では、千葉一裕先生（東京農工大学長）による「つくる責任つかう責任」と、Viivi Kuvaja氏（国際食糧農業機関（FAO））による「International Year of Plant Health – Protecting Plants, Protecting Life」をオンデマンド配信しました。

今回、新型コロナウイルスの影響で、日本農薬学会として



写真1. 令和2年度学会賞受賞者



写真2. 令和3年度学会賞受賞者

は初めてのオンライン開催ということあり、大会組織委員会の準備状況も十分には対応出来ず、ご参加して戴きました皆様方には大変なご不便をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。皆様方のご協力により、第46回大会（東京）を無事に終えることができました。参加者各位、特別講演、シンポジウムの演者の方々、また、企業展示5件、広告15件と多くのご協力を賜りご支援をいただきました企業各社に厚く

御礼申し上げます。大会運営を支えていただいた組織委員各位ならびに学生諸君に心から御礼申し上げます。最後に、新型コロナウイルスの収束による平穏安堵と、今後の皆様の益々のご活躍とご発展を祈念しております。

日本農薬学会第46回大会組織委員会委員長
有江 力（東京農工大学）

日本農薬学会第46回大会 収支報告書

単位：円

科 目	決 算 額	備 考
【収入の部】		
大会参加費	2,104,000	有料参加者数
		正会員 210
		学生会員 34
		非会員 78
		合計 322
講演要旨集頒布料	21,000	
企業セミナー・広告料	1,900,000	企業セミナー 5件 広告 15件
収入合計	4,025,000	
【支出の部】		
会議費	292,475	施設利用費，会議費
大会システム費，映像配信費	478,500	大会システム費，映像配信費
消耗品・雑費	148,412	案内英訳，衛生用品
アルバイト費	136,080	バーチャル会場係学生アルバイト
講師謝金費	66,822	シンポジウム演者
通信運搬費	6,445	切手代，郵送料，振込手数料
支出合計	1,128,734	
収支差額	2,896,266	

会 員 動 静

(令和3年4月1日～令和3年6月30日)

入 会

正会員

岩淵 博己 姜 法雄 田窪 竜明 杉浦 健司
中嶋 直子 廣瀬 欣也 宇高 秀輝 星川 佑輔
宮田知代子

学生会員

逸見 周平

団体会員

一般財団法人 農村医学研究所
(受付順)

退 会

終身会員

濱田 昌之

正会員

神田 勝浩 木村 忠史 前田 秀一 岡本 智裕
高垣真喜一 谷川 元一 稲生 栄子 戸田 和哉
遠西 正範 上田 成次 森田 雅之 森 達哉
田澤 英克 長尾 淳也 西森 俊英 姜 凱
西ヶ谷有輝 戸田 真 越智 良太 伊左治俊策
三反崎拓也 秦 大介 長谷川琢也 立本 行江
日向 栞 井原 章吾

海外会員

Coasts, Joel R. Istvan, Ujvary Lorsbach, Beth

准会員

Craig, E. Wheelock

寄贈

Clarivate Analytics

学会関連カレンダー

太字は日本農薬学会が主催，共催，協賛，後援する会議等

2021年

9月

29日(水) 第36回報農会シンポジウム『植物保護ハイビジョン—2021』

主催：公益財団法人 報農会

協賛：日本応用動物昆虫学会，日本植物病理学会，日本農薬学会，日本雑草学会

方法：オンライン

時間：10:00～15:30

<http://honokai.org/PDF/Symposium-36-Koen-Yoryo.pdf>

10月

15日(金) 第40回農薬製剤・施用法シンポジウム

主催：日本農薬学会，農薬製剤・施用法研究会

協賛：農業食料工学会，日本雑草学会，粉体工学会，日本化学会，高分子学会，色材協会，日本油化学会

方法：オンライン

URL：<http://pssj2.jp/committee/formulation.html>

28日(木)～29日(金) 第38回農薬環境科学研究会

主催：日本農薬学会／農薬環境科学研究会

会場：アリストンホテル神戸 [〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-1]

URL：<http://pssj2.jp/committee/environment.html>

11月

12日(金) 第35回農薬デザイン研究会

主催：日本農薬学会 農薬デザイン研究会

方法：オンライン

URL：<http://pssj2.jp/committee/design.html>

17日(水)～18日(木) 第44回農薬残留分析研究会

主催：日本農薬学会，農薬残留分析研究会

会場：フェニックスプラザ 小ホール [〒910-0018 福井市田原1丁目13番6号]

方法：オンラインとのハイブリッド開催

URL：<http://pssj2.jp/committee/residue.html>

※COVID-19感染症の影響により，オンラインのみとなる可能性あり

19日(金) 第20回農薬バイオサイエンス研究会（2021年度植物化学シンポジウム・植物化学研究会と共催）

主催：植物化学研究会，日本農薬学会，農薬バイオサイエ

ンス研究会

※詳細未定

25日(木) 残留農薬分析セミナー 2021年度

主催：日本農薬学会

方法：オンライン

※新型コロナウイルス感染状況を踏まえ，オンライン開催とします。詳細内容，申し込みについては学会ホームページでお知らせします。

2022年

3月

7日(月)～9日(水) 日本農薬学会第47回大会

主催：日本農薬学会

会場：岡山大学津島キャンパス [〒700-8530 岡山市北区津島中1丁目1-1]

※詳細未定

学会主催会議などの詳細

第38回農薬環境科学研究会

主催：日本農薬学会／農薬環境科学研究会

日時：令和3年10月28日(木)～10月29日(金)

会場：アリストンホテル神戸 [〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-1]

テーマ：植物による農薬の吸収・移行・代謝

参加者：90名（予定）

10/28 (木) 12:30～18:30 (1日目)

12:30～ 受付開始（委員会は12:00～13:00）

13:15～13:30 開会挨拶

1) 13:30～14:20 基調講演「植物の代謝多様性の分子基盤と代謝工学」

大阪大学大学院 工学研究科 村中 俊哉

2) 14:20～15:00 「土壌中クロピラリド濃度に応じた作物の生理障害と地上部中濃度との関係」
(国研)農研機構 農業環境変動研究センター 並木 小百合

15:00～15:15 休憩

3) 15:15～15:55 「ウリ科植物と内生菌の複合系によるPOPsのバイオレメディエーション」
山梨大学 生命環境学部 片岡 良太

4) 15:55～16:35 「ウリ科植物のPOPs吸収・移行メカニズムとその利用」

神戸大学 バイオシグナル総合研究センター 乾 秀之

16:35～16:50 休憩

- 5) 16:50～18:05 ポスター発表
18:05～18:15 休憩
6) 18:15～18:30 ポスター賞発表, 賞状+記念品授与

10/29 (金) 9:00～15:30 (2日目)

- 1) 9:00～9:50 特別講演1「神戸ビーフの遺伝学：和牛の
おいしさと歴史を紐解く」
神戸大学大学院 農学研究科 万年 英之
2) 9:50～10:30 「植物の農薬分解：フサモにおける動態・
代謝を中心に」
住友化学(株) 生物環境科学研究所
安東 大介
10:30～10:45 休憩
3) 10:45～11:35 特別講演2「兵庫県における酒米育種・栽
培の歴史と高品質化」
兵庫県農林水産技術総合センター 農産
園芸部酒米試験地 池上 勝
4) 11:40～12:10 総合討論
12:10～12:30 閉会挨拶
12:30～15:30 エクスカーション(参加者30名程度) 灘
五郷めぐり, 15:30頃現地解散予定

注) 新型コロナ感染予防のため情報交換会は行いません。な
お, エクスカーションについても感染状況によっては中
止または変更する場合があります。

第35回農薬デザイン研究会

主 催：日本農薬学会／農薬デザイン研究会
日 時：令和3年11月12日(金) 13:30～19:30 (懇親会含む)
開 催：オンライン
テーマ：新技術が拓く次世代の農薬デザイン

招待講演：

- 講演1：『天然有機化合物の全合成研究 ～独創的・画期的な合成法の開発～』
横島 聡 (名古屋大学)
講演2：『合成プローブで, 生体系でのタンパク質機能を探る』
浜地 格 (京都大学)
講演3：『構造生物学を基盤としたキナーゼ創薬研究』
木下 誉富 (大阪府立大学)
講演4：『殺虫剤オキサゾスルフィルの創製』
野倉 吉彦 (住友化学株式会社)
(プログラムの都合により順番・タイトルは変更になる場合があります)

参加登録費：(要旨集代を含む, 懇親会費無料)
一般 3,000円 (非会員6,000円)

公的研究機関 2,000円 (非会員5,000円)
学生 1,000円 (非会員3,000円)

参加申込み方法：

以下のフォームよりお申し込みください。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdfUT58OHJhFXgwZ3DhSLvxoB3XqkzGs564Jjy2kmy6r_zA/viewform

参加申込み締切日：2021年9月24日(金)

お問い合わせ先：

第35回農薬デザイン研究会事務局

担当：小森岳, 光寺弘匡

TEL：0797-74-2035

pesticide-design_35@ya.sumitomo-chem.co.jp

第44回農薬残留分析研究会 開催案内

※本年度ハイブリッド(対面参加100名以下+オンライン参加)での開催を予定しています。

参加および研究発表の申し込みの開始は, 8月上旬の予定です。

*コロナの状況により, オンライン開催のみとなる可能性があります。

主 催：日本農薬学会, 農薬残留分析研究会

日 時：令和3年11月17日(水)～11月18日(木)

場 所：フェニックスプラザ 小ホール

えちぜん鉄道三国芦原線 田原町駅から徒歩1分

JR福井駅からタクシーで約7分

〒910-0018 福井市田原1丁目13番6号

令和3年11月17日(水) 13:00～：

テーマ「農薬残留分析に係る最近の話題」

招待講演：「農業用ドローンを用いた最新の農薬散布について(仮題)」

株式会社ナイルワークス 柳下 洋

「パッシブサンプリング法を用いた河川水中の残留農薬分析について(仮題)」

大阪府立環境農林水産総合研究所 矢吹芳教

「花粉・花蜜残留試験について(仮題)」

日本植物防疫協会 荒井 雄太

「作物代謝をはじめとする農薬の各種運命試験について(仮題)」

残留農薬研究所 増田 稔

特別講演：「北陸の秋冬期における除草剤の利用によりカ

メムシによる斑点米の激減(仮題)」

福井県植物防疫協会 高岡 誠一

*他, ポスターセッションおよび企業展示

令和3年11月18日(木) 9:00～：

受賞者講演, 各種セミナー, エクスカーションを企画中

「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ改訂4版2018」出版のご案内

日本農薬学会では、精度の高い残留農薬分析を実施する上で特に配慮すべき事項を「Q & A」形式に取りまとめた「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ」を出版しています。2003年に初版を発行以来、好評を博して改訂を重ね、現在最新版が改訂4版となっております。改訂4版では、前3版出版以降の農薬登録制度の動向を反映させ、最新の科学的知見を盛り込むよう全文の見直しを行ったうえで、初学者の方にも、より読みやすくなるよう心がけて内容を再整理しました。また、携行性を高めるために軽量化を図りました。前版と同様に残留農薬分析の基本やノウハウを得るための参考書として、さらに、食の安全に関心をお持ちの幅広い方々に対しても、農薬の規制についての理解の一助となるようお役立て頂けると幸いです。定価は3,000円です（送料別）。

購入申込み方法：

メールまたはFAXにて、以下の日本農薬学会事務局に氏名、所属、メールアドレス、電話番号、送付先住所、購入冊数（FAX申込みの場合はFAX番号）等をご連絡下さい。また、メール等の件名には「問答あれこれ購入」と記入して下さい。折り返し請求書（送料を含む）を同封し発送しますので、振込みをお願いします。詳細は、学会ホームページもご参照ください。日本農薬学会事務局：

〒114-0015 東京都北区中里2丁目28番10号 日本植物防疫協会内

FAX: 03-5980-0282

MAIL: nouyaku@pssj2.jp

学会HP: http://pssj2.jp/overview/book_zanryu.html

※平成30年の農薬取締法改正に伴い更新が必要となった記事を新旧対照表として取りまとめました。学会ホームページ上（http://pssj2.jp/overview/book_zanryu.html）で公開していますので、ご参照ください。

「農薬について知ろう」ウェブサイトのご案内

日本農薬学会は学会ウェブサイト内に「農薬について知ろう」というサイトを開設しています。このサイトでは、農薬に関する理解を助けるため行政や公的機関などの情報を中心に紹介しています。

食品の安全に対する関心が高い中、家庭や学校など日常生活の中で農薬が話題となる機会も多いですが、関連する情報は散在しており、知りたい情報にたどり着くのに苦労することも少なくありません。そこで農薬のことを十分に理解するための多方面の情報を一元的かつ簡単に検索でき、食の安全や健康影響、環境影響などを考える際に利用できるポータルサイトとして運営しています。

このサイトでは、情報を必要としている方々に応じて小学生、一般の方、先生、農業・流通業関係者の4つのグループに分けて情報が整理されています。また、小学生向けには漢字にルビを振るとともに、分かりやすい情報サイトを選び紹介しています。さらに、情報は「規制」、「安全性」、「薬剤」、「環境・残留」、「農業」のカテゴリー別に分類されています。「規制」は農薬の登録や管理に係る法律、試験方法、農薬残留基準、食品の輸出入など、「安全性」は毒性、安全性、健康影響、リスク評価やリスク管理の考え方、「薬剤」は農薬の種類や特徴、農薬の使用法、「環境・残留」は農薬の残留、環境中の分解、環境生物への影響など、「農業」は効果、薬害、防除、農法などについて整理されています。また、キーワードからカテゴリーごと、あるいは、50音別・アルファベット順別に縦横に検索できる機能も備えています。農薬に直接関わらない子供たちや一般の方々に向けてだけでなく、農薬や農業の専門家の方々にも十分役立つような情報を収録する工夫がされています。

今後も新しい規制や技術、知見など収録情報の追加や更新を継続していきます。会員の皆様には、関係者にもご案内いただき、あわせて積極的なご活用をお願いいたします。

日本農薬学会のトップページや下記のアドレスからご覧ください。

<http://pssj2.jp/rikai/index.shtml>



【予告】農薬科学研究奨励金

日本農薬学会では、農薬科学研究の支援を目的として、特に競争的資金の獲得が難しい研究課題や研究者の方々にも利用しただけよう農薬科学研究奨励金の交付を行っています。今年度も令和4年度交付分（1件上限50万円、総額100万円を予定）の募集を9～11月に予定していますので、応募をお考えの皆様には是非前もってご準備ください。詳細な応募要件等は、後日正式に決定次第、ご案内いたします。

過去の採択課題：http://pssj2.jp/inside/past_grant.html

日本農薬学会第47回大会のご案内

日本農薬学会第47回大会を、令和4年3月7日(月)から3月9日(水)までの3日間にわたって岡山で開催いたします。

新型コロナウイルス感染の拡大が続いており、大会実施形式、実施計画については現時点で確定していません。令和3年9月ごろの状況を鑑みて、11月初旬迄には詳細を決定する予定です。

これら情報については、従来のPSSJ News Letterでの詳細報告は行わず、大会ホームページおよびお知らせメールでお知らせします。

本学会員ならびにご関心をお持ちの皆様には、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。植物防疫関係2学会（日本植物病理学会、日本応用動物昆虫学会）および日本雑草学会と植物化学調節学会の正会員・学生会員の方は、例年通り、本学会会員扱いとなりますので、お近くの学会員の方にも参加・発表をお誘いいただければ幸いです。また、非会員の方のご参加も歓迎いたします。

本大会における広告、展示およびランチョンセミナー募集のご案内につきましても、近いうちに学会ホームページおよびお知らせメールでお知らせします。

〈問い合わせ先〉

日本農薬学会第47回大会組織委員会委員長 神崎 浩（岡山大学）

E-mail: hkanzaki@okayama-u.ac.jp

日本農薬学会第47回大会組織委員会総務担当代表 清田洋正（岡山大学）

E-mail: kiyota@okayama-u.ac.jp

会費値上げのお知らせ

学会の規模に見合った適正かつ安定的な運営のため、2021年3月開催の評議員会ならびに総会にて、本学会の正会員会費について2022年から現状8,000円を10,000円へ改定（学生会員は2,000円据え置き）することが承認されました。今後も、経費節約とサービス向上に努めて参りますので、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

日本農薬学会会長 塩月孝博

発行所：日本農薬学会

〒114-0015 東京都北区中里2-28-10

一般社団法人日本植物防疫協会内

FAX: 03 (5980) 0282

E-mail: nouyaku@pssj2.jp